

公益財団法人

栃木県ひとり親家庭福祉連合会



宇都宮市野沢町4-1

TEL 028(665)7806

発行人 栗橋幸子

印刷所 高橋平版社

# 白梅

## 「ごあいさつ」

栃木県保健福祉部

こども政策課長

田中島 浩子



今年度、栃木県保健福祉部こども政策課長に

就任いたしました田中島でございます。公益財団法人栃木県ひとり親家庭福祉連合会機関紙「白梅」の刊行に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。栗橋会長をはじめ、理事の方々や会員の皆様には、ひとり親家庭等の方々の生活の安定と

## 「ごあいさつ」

栃木県ひとり親家庭福祉連合会

会長 栗橋 幸子



年が明け、落ち着く間もなく新型コロナウイルス関連のニュースが連日報じられ、全国民が不安な毎日をご過ごしております。マスク不足に加え、トイレトベーパー不足などのデマ情報が飛び交う中、購入のため並ぶ時間が無いひとり親家庭の方、健康不安を抱える高齢寡婦の方はさ

福祉の向上に向けて、日頃から一方ならぬ御尽力をいただいております。改めて深く感謝を申し上げます。

さて、平成二十八年の国民生活基礎調査によりますと、児童のいる世帯の平均稼働所得が六四七万円であるのに対し、母子世帯は二一四万円と三割程度にとどまっており、ひとり親世帯の五〇・八％は相対的貧困世帯であるなど、ひとり親世帯の生活は依然として厳しい状況にあります。

また、平成二十八年に厚生労働省が実施した全国ひとり親世帯等調査においては、母子世帯の八一・八％が就業しているものの、正規の職員・従業員としての雇用は四四・二％にとどまっております。

対し、より収入が高く安定的な雇用形態での就労につながるよう、より一層の支援が必要となっております。

このような状況のなか、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国一斉休校の要請や事業所の休止等により保護者の仕事に制限される等、ひとり親家庭の生活にも大きな影響を与えており、生活の急変時における柔軟な支援も求められております。

県では、令和二(二〇二〇)年三月に「とちぎ子ども・子育て支援プラン(二期計画)」を策定し、ひとり親家庭への支援と貧困の世代間連鎖を防ぐため、引き続き、高等職業訓練促進給付金等の各種給付金事業、貸付金事業や母子家庭等就業・自立

ぞやお困りのことと存じます。加えて学校も突然お休みとなり、子どもの学力低下も心配です。学習支援事業で応援をと思いましたが、公共の施設の貸し出し制限等もあり、支援も難しい状況です。

また、就労に関しても、ひとり親家庭のお母さんの多くは非正規雇用であるため、家族の健康が収入に直結してきます。「もし、私や子どもが感染したら?」「休業補償は?」など問題は次々浮上してきます。国も助成制度を検討していますが、団体としても皆様の抱えている問題を解決に向け、国や県に声を届けていかなければと思

ます。

今、混乱の中「これからどうなるの?」「店舗から次に何が消えるの?」「不安を煽られパニックに陥らないようにしましょう。そのためには、こんな時にこそ会員同士協力していくことが大切ではないでしょうか。

生活支援・子育て支援の制度を活用してひとり親家庭のお子さんをみてあげるのもよいでしょうし、独居寡婦の方に、手作りのマスクをプレゼントしてあげるのも良いかもしれません。みんなで支え合って乗り越えていきましょう。

最後に、今年もローソン「夢を応援基金」の募集が始まりま

支援センター事業の実施など、ひとり親家庭の自立に向けた各種支援策に取り組みで参ります。今後、貴連合会と連携しながら、ひとり親家庭への就労支援等、各種事業の効果的な実施に向けて取り組んで参りますので、引き続き御協力くださいませよう、お願い申し上げます。

結びに、貴連合会におかれましては、ひとり親家庭の総合的な福祉を推進する県内唯一の母子・父子福祉団体として、ひとり親家庭の安定と向上のため、より一層御尽力いただくことをお願い申し上げます。栃木県ひとり親家庭福祉連合会の今後益々の発展を御祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

した。全国で四〇〇名、栃木県でも開始以来平成二十九年度に六名、三十年度に五名、令和元年度に五名の中学三年生から高校三年生が奨学金を受けています。ひとり親家庭にとって償還なしの月々三万円は大きい金額です。学力よりも「自分の夢に向かってどんな努力をしているか」に重きが置かれています。「あきらめずに夢に向かって頑張る子」が、ひとりでも多く社会に飛び立っていきけるよう、そして、格差社会は正のためにも官民挙げてすべての方のご支援をお願いいたします。

# 地区 だより

## 鹿沼市

湯澤 有希

私は、二年間鹿沼市ひとり親家庭福祉会の学習支援事業に参加させていただき、昨年は、「ぶちとま・かぬま」の事業にも参加させていただきました。学習支援事業「学び家」での活動や「ぶちとま・かぬま」事業で感じたことを書かせていただくと思っています。

私は高校時代に父が他界し、母子家庭になりました。そんな自分に何かできることはないかと思い、「学び家」に参加させていただいております。学び家」では、小学生から中学生の子どもたちが、講師の方や友達と熱心に勉強に取り組んでいます。楽しく、そして一生懸命に勉強している子どもたちの姿を見ると、このような場の重要性を改めて感じます。子どもたちから学ぶことも多くあり、参加させていただけることに感謝しております。

また、「ぶちとま・かぬま」の事業には、姪と一緒に参加させていただきました。八月にはサンキヤットチャー作り、十二月には、毛糸を使った小物づくりやクリスマスカードの制作、そしてクリスマスパーティーも

しました。それぞれの活動で、子どもたちは夢中になって何かを作りあげており、その姿に感動しました。また活動を通して、参加している子どもたちや保護者の方と自然に会話をすることができ、多くの方と「繋がりがもてる場は、とても貴重だと感じました。自分自身これからの参加させていただきたいです。

「学び家」で講師として携わらせていただく中で、このような楽しいイベントにも参加でき、本当にすばらしい時間を過ごすことができました。携わっていただきたすべての方々に心より感謝申し上げます。



## 那珂川町

葛西 京子

私たちは会員の交流と研修を兼ねて、ふみの森もてぎにおいて、茂木町との合同研修を行いました。宇都宮気象台の近田忠宏様を講師に迎え、「栃木県の気象、災害等と対策」と題し、防災気象情報についてお話を伺いました。

九時半から那珂川町の活動報告を行い、続いて茂木町の川田会長よりお話を伺いました。どちらの町も人口減少の問題をかかえて、会員の加入と活動の継続に不安をいただいているように

みられました。

十時より、プロジェクトで映し出された天気図を見ながらの研修が開始されました。栃木県は内陸性気候で、夏は雷と雨、冬は北西部が豪雪地帯に指定されています。ここ何十年かの栃木県の大きな災害では、

- ・一九八六年の茂木水害（死者六名が出る。）
- ・一九九八年那須豪雨（死者・行方不明者七名、那珂川に牛が流される。）
- ・二〇一九年の台風一九号による日本中を襲った災害（栃木県も広範囲で被災）

などがありました。このような自然災害は、地球温暖化による影響が大きく、百年に二・二度気温が上昇しているように見えます。温暖化は自然現象に加え、人間の影響が大きいので、自分たちでできる「ストップ・ザ・温暖化」に取り組むことが大切とのことでした。

そして災害から自分を守るためには、

- ※日頃から自分の住んでいる場所の危険性を知る。
- ※ラジオ、テレビ等で最新の気象情報を取得する。
- ※安全に避難場所へ行けない時は、家の中の安全な場所へ移動する。

※早め早めの行動をとることで、自分の安全を確保する。ことが大切だということを学びました。

「ゲリラ豪雨とはどういうことですか？」などの質問が上がり、有意義な研修となりました。

## 壬生町

石川 由美

壬生町ひまわり会では、毎年四月に総会を開き、年間行事を決めております。その中で常にあることは、新規会員の加入ではないでしょうか。

そのための活動として、毎年行っているのがイチゴ狩りです。毎年六月に地元イチゴ農家さんのご好意で、ハウスの一部を開放していただいています。今年度は壬生町子育て支援センターとも連携をとり、数組のひとり親家庭の親子の参加がありました。加入には至りませんでした。が、会の存在を知ってもらうには絶対のチャンスだったと思います。

昨年度には、加入促進事業の予行演習として、クリスマスケーキ作りもしました。母子父子の参加は少なかったですが、この活動もしっかりと立ち上げて、毎年の恒例行事の一つになるよう根付かせていけたらと思っています。

さらに今年度は、十月に下野市ひとり親家庭福祉会の皆さんと交流の場を設け、意見交換をさせていただきました。やはり他市町との交流は、いろいろなヒントを得る絶好の機会。これからも積極的にやっていきたい活動の一つとなりました。

一月からは、家庭生活支援員養成研修を受講しました。短い期間ではありますが、しっかりと知識を身に付けて、微力ながら

からも地域の役に立てるよう尽力していきたいと思っております。



## 高根沢町

栗橋 幸子

私たちの会は寡婦二十二名、母子二十五名の会です。寡婦は年々減少傾向にあり八十歳代が大半ですが、元気に毎年春と夏の二回、福祉センターの花壇の除草と花植えを行っています。

本年度の宿泊研修は長野県方面を予定していたため、千曲川が氾濫し実施できの心配がありました。途中高速道路の路肩が崩れていたり、水害にあった家財が山積みになっていたり災害の恐ろしさも実感しましたが、リンゴ畑が美しく楽しい旅行となりました。

また、町のバスを利用した日帰り研修は、足利市との交流会を実施しました。ちょうど水害の後で、交流会場の入り口にはボランティア受け入れの窓口が設営され、まさに多忙の中の訪

問となりました。茅田会長ほか会の皆様、事務局の方には大変お世話になりありがとうございます。

母子部は、いちご狩りとせんべい焼き体験、去年台風と重なり中止したサフアリパーク旅行は、今年度は現地集合として実施しました。園内バスの窓からキリンが顔を出し、子どもたちはおっかなびっくり餌をあげ「キリンの舌って長いね」などとお母さんと話している姿を見て、実施してよかったと思いました。

また、毎年ボーリング大会を実施している会場が閉館したため、栃木県子ども総合科学館見学としました。パソコン教室を受講したお母さんも参加してくださり、貴重な新規会員となりました。学習塾に来ているお子さんたちは十名いますが、大半が中学生なので母子部事業の参加がないため、令和2年度は塾生とお母さんを中心とした事業を企画していきたいと思っています。

最後に、企画からチラシ作り、事業報告まですべて母子部で行っていることをお伝えします。

茂木町

川田 芳子

小さな会の茂木町ひとり親家庭福祉会も、高齢化が進み会員減になりつつあります。母子、父子の加入に向けて、春はパーベキュウ、夏はそうめ

ん流し、冬はクリスマスケーキ作りと絵本プレゼントなどを計画しましたが、少ない人数の集まりでしたが、一組二組と母子の加入がありました。大きな行事のチームラボプラネットOKEYO行きは、会員と会員外の親子二十一名で行き、加入が一組ありました。少しずつですが、会員増に向けて、活動を続けたいと思います。ただ、皆さんには「無理せず会への協力を！」としております。



那須烏山市へようこそ

高田 クミ

栃木県の東部に位置する那須烏山市は、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山あけ祭」で有名なところです。山あけ祭は夏の大イベントでもあります。一昨年は烏山城築城六〇〇年を記念し、那須烏山市内はいろいろなイベントでにぎわいました。今回は、那須烏山市街の紙上案内をさせていただきます。龍門の滝には、昔大蛇が住んでいたといわれています。滝の近くに龍門ふるさと民芸館があり、無料で入館できます。龍門の滝は、冬場は全体が凍結しますが、今年は暖冬のため氷は見られませんでした。

烏山和紙会館では、山あけ祭に使用する和紙などが展示販売されています。ここでは和紙作りの体験はできませんが、小原沢にある和紙の里では体験ができ、和紙のハガキぐら

昔、烏山の殿様が、茶会のお供に和菓子を提供していたようで、和菓子屋さんも市内にはたくさんあります。おいしい和菓子や、ぜひ食へにいらしてみてください。

那珂川では六月にアユ釣りが解禁され、多くの釣り人が竿をたらしめます。七月にはやなも始まり、おいしいアユが食べられます。子どもはやなでアユを捕まえてかごの中に投入生アユにじかに触れることができるチャンスです。

また、那須烏山は果物も豊富に栽培されている地域で、梨、リンゴ、ブドウ、柿、ブルーベリー、そしてミカン、ミカンは那須烏山より北では栽培されていません。少し酸っぱいですが、その意味では自慢の産物です。

平成二十六年から、日本初の蓄電池駆動電車「アキユム」が、烏山線で運行しております。ぜひアキユムに乗って那須烏山に来て、見て、食べて楽しんでください。お待ちしております。

令和2年度 就業支援講習会

～ひとり親家庭の父、母及び寡婦の方対象～

- \*介護職員初任者研修
- \*医療事務研修
- \*パソコン研修

今年度より業者委託となります。講習は無料ですが、テキスト代、受験料等の個人負担があります。4月1日より随時受付、4月22日より順次開催となりますので、詳しくは事務局までお問い合わせください。

女性弁護士による無料法律相談

～離婚を考えている方、ひとり親家庭の父、母及び寡婦の方対象～

相談日 毎月第2、第4水曜日の午前中  
相談時間 ひとり30分程度  
事前予約が必要です。

※お問い合わせ・予約

☎ 028-665-7801・7806  
火曜日～日曜日(祝日除く) 9:00～16:00

令和2年度 行事予定

- 県民福祉のつどい 8月24日
- 関東ブロック研修大会 9月27日～9月28日 (静岡県静岡市)
- 親子ふれあい会 10月3日
- 全国研修大会 10月24日～10月25日 (東京都大田区)
- サポーターのつどい 11月15日
- 家庭生活支援員養成研修
  - 1月16日～2月13日 土曜コース
  - 1月17日～2月14日 日曜コース

# 受講生の声

## 初任者研修を受講して

岡田 歩美

介護の経験も資格もない私が、介護施設で働くことになり、介護の知識があれば、もっと利用者様に寄り添えるのではとの思いで、研修を受講致しました。最初は、研修を受講致して、いられるか、子供が留守番をしながら、仕事をするか不安でした。しかし、介護施設で働きながら受講している人も多く、同じ悩みを抱えながら頑張っている人から温かい言葉をもらったりと、受講しなければ得られなかったものもありました。子供も留守番ができるまでに成長し、研修に行く時には、笑顔で応援してくるので、私の生活にも良い影響がありました。講師の先生方も熱い思いを持っていらつしやる方達だったのでも、共感でき、とても心動かされました。一緒に研修をしてきた仲間も、一人一人が魅力的で素敵な人達でした。本当に楽しかった時間をありがとうございました。無事に合格でき、気づいた事が



あります。それは、受講する前により介護知識が付き、利用者様によりよい介助ができるようになった事です。さらに、講師の先生から教えていただいた体験談を私なりに試し、利用者様に喜んでもらっています。大変な事もありましたが、研修を受講してよかったです。この様な貴重な機会を与えてくださった、支えてくださった皆様に感謝致します。ありがとうございます。

## 医療事務研修を受講して

四谷 宏美

再就職に向けて複数の資格取得を目指し、職業訓練学校と並行して本研修を受講させていた

受講初日は比較的馴染みのある健康保険証に関する内容でしたが、講義が進むにつれ難易度が上がり、悪戦苦闘の日々が続きました。それでも最後まで通い続けることができたのは、先生の講義が大変興味深く楽しかったこと、事務局の方のサポート、そしてひとり親という共通の同志(と勝手に思っている)が真剣に学ぶ姿を見て、私一人では学べないのだと励まされ安心できる場だったからです。そんな恵まれた環境のおかげもあり、無事に医療事務管理士を取得することができました。しかし、これはゴールではなく新たなスタートラインにすぎません。これに驕ることなく、正規雇用に向けて日々精進し、邁進していく所存です。最後に指導くださいました先生、事務局の皆様には大変お世話になりました。このような機会を与えてくださり感謝申し上げます。ありがとうございます。

## 家庭生活支援員養成研修を受講して

星 和枝

これまでひとり親の家庭支援については知り得ませんでした。が、県民だよりの募集掲載をきっかけに受講させていただきました。

## 家庭生活支援員養成研修を受講して

石川 由美

実習を含めた五日間の研修を終えて、無事に修了証を受け取れましたこと、心より感謝いたしております。

## 事務局の異動

### \*退任

事務局長 阿久津 真  
お世話になりました。

### \*新任

事務局長 釜野井 康司  
相談員 森尻 真理  
よろしくお願いいたします。

## 編集後記

昨年は台風一九号による記録的な豪雨により甚大な被害があり、いまだ県内随所に災害の痛ましい爪痕が残されています。地球の温暖化を考えると、今年の暖冬も喜んでばかりはいられません。まして、栃木県ひとり親家庭福祉連合会の会員数の現状は、十年前の約半分近くまで減少し、特に母子部の活動に支障をきたしています。

今年の干支は「子」ですが、新しい物事や運気のサイクルの始まる年だといわれております。ネズミ算とはいかなくても、「会員一人がひとり誘う」気持ちで一年を過ごせば、十年前の会員数も夢ではありません。会員増の願いを込めて白梅一四三号をお届けします。

### 〈広報部会〉

田口・齋藤・赤荻・山口  
高田・木村・森島・三田  
織田・野呂

「白梅」は、赤い羽根共同募金配分金により発行しています。